



はじめに

仏教はインドで発祥、中国に伝わり日本に伝来。
日本にインドの独創性はない。中国程の実利性も無い。
だが、日本に伝わると世界一のものになる。
不具合を直し、熟成する能力は世界で日本が一番だ。
仏教哲学は日本で完成度を上げ世界性を持った。

第一期ジャポナイズ、聖徳太子の「世間虚仮 唯仏是真」
と「17 条憲法」は仏教の持つ絶対性で国教化。この
世は泡沫、あの世こそ真。この世に住む者の心得を、
憲法化した。(詳しくは後述)

第二期ジャポナイズ、空海・最澄らによる本覚思想と
草木国土悉皆成仏思想で神仏習合。仏教中心の日本文
明は、自然と他の生態系に目が届く持続的思想に進化。
(詳しくは後述)

第三期ジャポナイズ、法然・親鸞らが人間の持つ善悪
二つの極「煩惱と靈性」を仏教思想に明確化、人間の
弱点をどう克服するかで仏教思想を地動説化した。

(詳しくは後述)

第四期ジャポナイズ、明治期に清沢満之、中村天風、
鈴木大拙らが更に仏教を熟成。清沢は生と死、煩惱と
靈性等を相対有限と絶対無限に峻別。中村は自分の正
体を「生命」と気づき、それが宇宙生命と同質・同類
と見抜いた。

鈴木は、その絶対無限や生命こそ神仏であり、その名
を「日本的靈性」と命名。(詳しくは後述)

単なるジャポナイズでなく、梅原は仏教の世界性に言明。西洋哲学の本質は「生」だけしか捉えていない片面的な、いわば天動説哲学だ。理性・欲望・自利を基調とする西洋哲学、資本主義文明は、戦争・核兵器・貧富格差超拡大・地球環境悪化を無くせない。対する日本文明は、それら全てを解決出来る。「生死一如」、生死を俯瞰した地動説的見解で、あるがままを捉えていると表明。明治から二度の神殺しが如何に文明的、唾棄問題かを文言化。(詳しくは後述)

政治学者サミュエル・ハンチントンは 21 世紀初頭「文明の衝突」で、人類文明を世界八大文明に分類、中に日本文明を叙している。彼によれば文明の基本要件は、優れた宗教、言語、文学、芸術、科学技術等、としている。ところが明治の神仏分離令(廃仏毀釈令)と戦後、宗教そのものを排除し科学以外信じるな、とする占領米軍政策により仏教は単なる葬式仏教にされた。

日本文明には生命第一、反資本主義の思想がある。それに沿う作品群がある。世界に浸透する手塚治虫とトキワ荘の人々、寅次郎映画・山田洋次、アニメ・宮崎駿等、いずれも資本主義的自利、うしろ暗い利養心が毫も無い。日本文明の核、伝統仏教の「利他」「生命の美しさ切なさ」生命第一の文明が次の世界文明だ。日本的靈性思想は「煩惱」(相対有限)と「靈性」(絶対無限)の二極を捉え、人間の靈性を承認、信憑して人類の標準思考とし、オカネ第一ではなくなる人類文明に上質化する。(以下も文中敬称略)



ポスト 資本主義 日本文明 目次



はじめに	3
------------	---

第1部 当初から仏教の先進性

紀元前500年、煩惱(自利)に気づいていた。	12
「自分と大自然」の関わりを知れ。	16
孔子 ソクラテス	20
地球気象大変動の弥生期 鉄刀が海峡を徒歩で侵入。	22
渡来人の自己顕示 古墳造りへの疑問	26
仏教の利他 これだ!	32
中国の帝王学「貞観政要」	36

第2部 日本伝統仏教の進化

空海・最澄による超多神教化	46
源信僧都、地獄絵(閻魔様に舌抜かれる)	48
法然① 幼名勢至丸	50
法然② 法然なくば親鸞ない。	54
日月星辰を超えて行く阿弥陀	56
悪の自覚	60
「如来と煩惱」を凝視する① 再び悪の自覚	64
「如来と煩惱」を凝視する② 煩惱(欲望)で「名利の大山」に迷う	68

「如来と煩惱」を凝視する③ 肉食、妻帯は人間の現実。	72
仏教の民衆化、在家仏教へ 妙好人とは①	78
仏教の民衆化、在家仏教へ 妙好人とは②	80
現世利益ってあるか?	84
中国の禅は即、日本化	86
法然と家康	88
明治と真逆 平和、上質、江戸社会	94
逝きし世	96
跪(ひざまず)くべき者を奪う二度の神殺し。	100

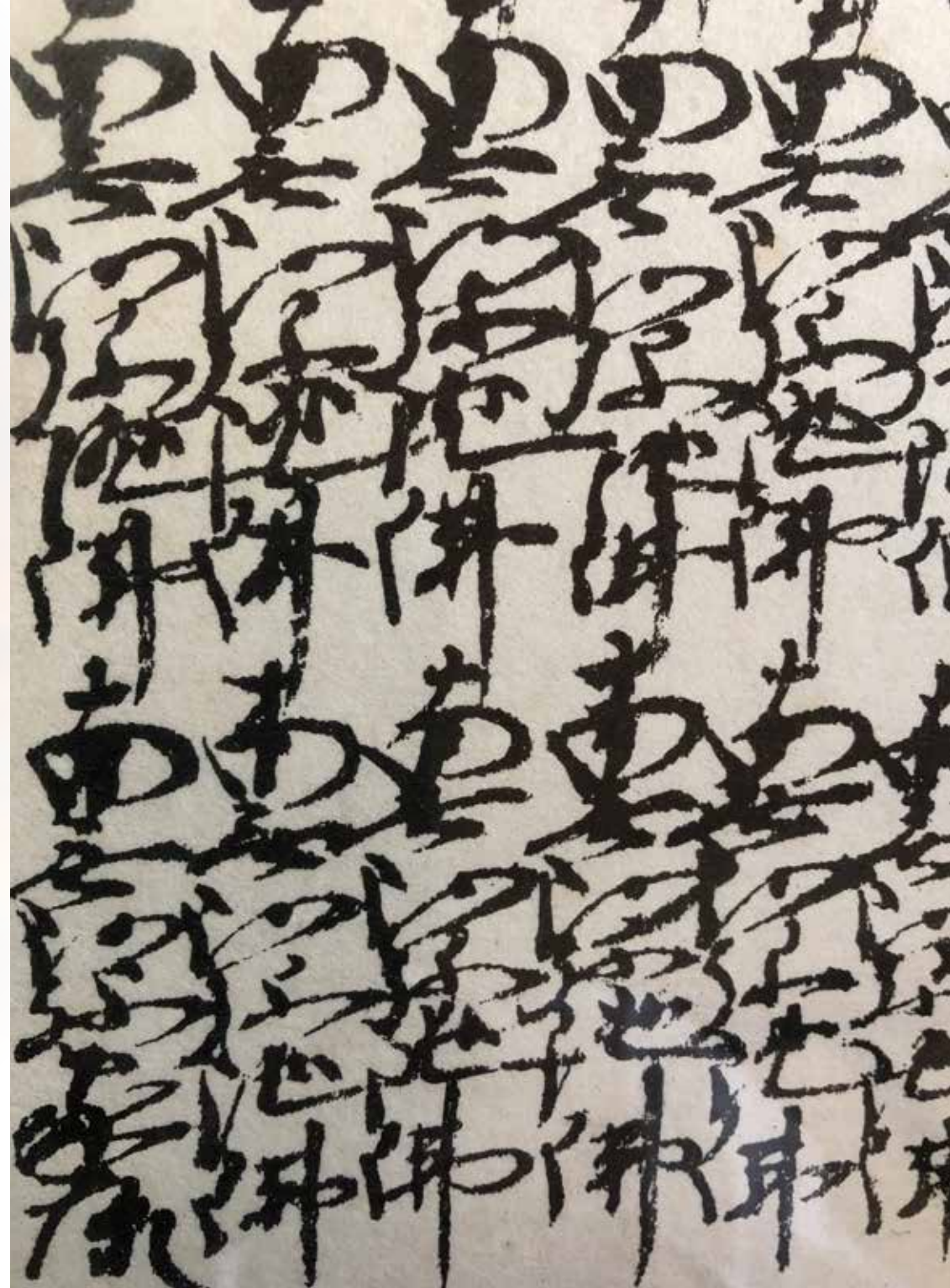
第3部 仏教圧殺、二度の神殺し

捕鯨船、補給の為、嘘ばかり。	108
長州ファイブ突然の渡英(今の貨幣価値で一人1億円の経費、誰が出した?)	112
こんな国に誰がした。何をされたか分からない維新後の日本人	116
戦争・貧困のない次期世界をどう創るか。	120
「戦争で問題解決」は正真正銘狂気。	126
資本主義文明は弱者見ぬふり。	132
世界の八大文明 その中の日本文明	134
人間至上主義の落とし穴	138
自利・エゴが資本主義的正常という思考からの脱出	142
二極統合へ① ゼロとイチの意味。	146
二極統合へ② 0(ゼロ)と1(イチ)の原理	148



第4部 次の世界思想

「有限閉鎖空間」が日本文明そのもの	154
梅原猛は伝統仏教に着目。	158
仏教哲学の世界化と具体化。	170
「相対有限」とは何だ。	176
「絶対無限」とは何か。	182
目からウロコ。「本当の自分」	188
鈴木大拙が希(こいねが)うもの。	200
柳宗悦の価値	212
「二極統合思想」の世界性①	220
「二極統合思想」の世界性②	224
米国政府は日本を無二の「同盟国」にしたい。	228
次期文明は個人の能力無限化が起きる	232
次期文明 絶対無限が原動力	236
私達は宇宙の星屑スターダストだ。	242
あとがき	252
参考文献	254



人間の本性は 善か、悪か。

①相田みつをの「にんげんだもの」の詩が何故良いか。②宮沢賢治の「雨にも負けず」の詩がそして③金子みすゞの「大葉イワシの大漁」が何故、人の心に感動を呼び起こすのか。

人を信用するのか、しないのか。それは人間の本性が性善説か性悪説かの問いだ。伝統仏教で人は、両方の性質を持っていると分析する。どちらに頼れば各自と社会発展が望めるか。答えは性善説だ。性悪説に基づけば、いずれ人間を残らず消滅させねばならない。人間に霊性と良心がないなら、究極、他に道は無い。人間のどこを信用するか。2500年前から人間分析をしてきた仏教思想は、人に2つの性質が有ると言う。①性悪的な煩惱（欲望）と②性善的な仏心（霊性・良心）。

人間はこの二つの極、両方を持っている。人間が煩惱を克服して仏心（ほとけごころ）に基づき生きる。これが伝統仏教の思想だ。ではどうすれば煩惱を克服し仏心で各自が、社会が発展・繁栄出来るか、それが本書のテーマだ。

第1部
当初から
仏教の先進性

紀元前500年、 煩惱(自利)に 気づいていた。

日本は縄文晩期。

生まれた子の才能・可能性、それは絶対無限だ。この重大な真実を見逃して死ぬ人が多い。子の才能や可能性は誰も未曾有で際限ない。出生の確率は、10億円の宝くじを連続1000回当たるより困難だ。自分がこの世に生まれる真の価値を骨身に染みて自覚しろ、とお釈迦さんは言う。私達人一人一人は、個性や独自性を持っている。それを駆使して、世界で唯一人の生きる道をそれぞれが創造せよ、という意味が「天上天下唯我独尊」に込められている。金儲けして楽に暮らそうなどと考えるな。かと言って貧乏を続けろとは言っていない。自分の個性・独自性と人間の全可能性の中から自分に合った生きる道を探す。又は生きる方法を創造しろ、とお釈迦様は言う。日本に伝来して発展して来た伝統仏教は、そうした各自の抱えている問題解決の為の究極思想として益々今日性がある。

私が偉い、 と言ってない。

お釈迦さんの思想は次期世界文明そのものだ。

天上天下 唯我独尊

人間一人、誕生の重さを短い言葉で言いきれぬ天才性に釈迦の今日性がある。一部の人が、この8文字を「自分だけが偉い」と受け取るが誤りだ。出産し無事に成人する確率、どれも奇跡である。自分はどれ程大きな可能性を秘めているか計り知れない。この事実を自分の本領・可能性を全開し、生きる道を探そう。人生とは深き広き強き創造である。

人間が生まれた途端に7歩、歩けるわけがない。お釈迦さんは2500年前、人類に空前絶後の影響力を持ってこの世に生れた人だ。この人の言葉は我々にとって、真実性・斬新性・誠実性が群を抜いている。「天上天下唯我独尊」は、人間一人、出生する創造性の真実を言う。「氏より育ち」どころではない。私達は、父母を超えて何かが出来る可能性の塊だ。



中国の帝王学

「貞観政要」

じょうがん

「皇帝は仏、官僚・軍人は菩薩」 仏教思想で栄えた唐代

世界的に見て地球上最も栄えた唐の文明、首都は北西部の長安（現在の西安）だった。隋・唐代政権は北からの遊牧民だ。その後も元・清など北からの政権が農耕民の漢族と政権を武力で入れ替わる。長い歴史の殆ど、一般中国人民はその度に塗炭の苦しみの中で歴史は転変した。結果、中国文明は、思想的に漢族の儒教、土着の道教、3世紀以降は北方政権が取り入れた仏教、と三つの思想を中心に混沌と交ざり諸子百家を生んだ。貞観政要（じょうがんせいよう）は名君、李世民（2代皇帝）とその部下の言行録で仏教思想に裏うちされ時空を超えた永遠の成功哲学として世界的に有名だ。貞観政要は武力でなく人間の本質にあるホトケゴコロを起点とする思想で構築されていて、中国で最も栄えた時代を支えた。

世界性のある「帝王学」

戦争は利己で平和は利他。

大成功の唐代、
中国文明の最上質部分。

日本からも遣唐使船に乗って空海や最澄が首都、長安（西安）に向かう為、危険を冒して海を渡った。特に空海は、土木・冶金・薬学等、多岐にわたる先進技術を中国から日本にもたらした。唐の治世2世紀前から中国は、国家が仏教を取り入れた。仏教思想は人民全てが豊かになって、はじめて国家は成立すると考えた。世界史は血なまぐさい戦争による権力奪取の連続が全てと描かれている。その影で膨大な人民が犠牲となる。文明は徹底破壊される。権力の母胎とは、その国で暮らす人民である。唐代は仏教が平和を求めて民衆に根付いた。そこで大文明としての様相を呈し安定した。帝王学、貞観政要の基本思想は仏教思想であ

「皇帝は、国をあげて人民
（衆生）を救わねばならない」

る。「皇帝は仏（如来）である。皇帝の官僚や軍人は人民を救う菩薩である。だから皇帝は、国をあげて人民を救わねばならない」貞観政要は、人間である皇帝が仏の心（ホトケゴコロ）で人民に接する事を前提としている。官僚や軍人は仏に成る手前の存在、菩薩として人民を救う。帝王学、貞観政要は全部が仏教思想で出来ている。「主体は、衆生、人民」となる。長い中国の歴史だが、その中で安定期は少ない。しかし、政権が仏教思想の影響を受けた時、安定し文明が発展する。清の時代も初期に名君が現れる。建前の儒教でなく人知を超えた本音、ホトケゴコロの思想チベット仏教が清朝政府の基礎にあった。



仏教進化の歴史的必然

目に見えて確認できるものだけを信じる、と言う思想がどれほど野蛮か。人類は大地が球体である事を知り地動説に認識を変換。その後、幾つの認識を変えたのか。なのに人間は最も身近な自分の「生」が、自分の「死」と隣り合わせて存在している認識を哲学的に放置のまま。資本主義文明は生命とは何か、死とは何かの考察や定説も定まらずただ理性を限界としている。死後は「無」だ、とする明白な誤りを何故現代の哲学は否定しないか。生物生存、と言う相対有限の裏に「死」と言う「絶対無限」が潜む事を哲学的に捉えていない。「生の必然」死の認識が無いという誤りを既存哲学は解決出来ない。宗教はそれを問題にしている、が科学はその死を敵視または無きものにしようとさえする。愚かを超えている。寿命が伸びても遅かれ早かれ死は必ず来る。それを「絶対無限」と言う。絶対無限は断じて存在する。この世の全ては相対有限である。唯「死」あの世と言う絶対無限は今の科学でどうにもならない。だから無いと言うのか。数学的に絶対無限の概念はあるが、それと人間の死は無関係な儘だ。現実、相対有限と絶対無限の二極で全存在が構成されていると言うのがあるがままの、地動説的な哲学思想なのだ。

第2部 日本伝統仏教 の進化

日月星辰を超えて 行く阿弥陀

理性や知識で考えて
分らない。

偉大なる何者か、とはサムシンググレート、別名、天のおとつあん、阿弥陀仏、釈迦如来、呼び名は代名詞で何でもよい。昔から日本で神仏。宇宙法則を司る何者か、その名を仏教の言葉で、Amitabha（インド古語で絶対無限の意）中国へ来て阿彌陀、という。この超絶な力を持つ「仏」に全てを任せる。アタマでいくらあがいても、世の中どうなるものでもない。なら、ままよ、全てを阿彌陀仏に託そう。お願いやおねだりではない。勝手なご利益願望、煩惱解決も願わない。偉大なる何者か、日月・星辰を遥かに超えた存在、「仏」（絶対無限）に助けられ、こうして生かされている。骨肉を賭けた弥陀への感謝一筋。それが「念仏」だ、と法然は言う。

仏教史上 有名な大原問答

慈悲・知恵・能力の
絶対無限。

大原問答の最中、法然は「ただし源空（法然上人）ごときの頑愚のたぐひは、更にその器にあらざる故に、悟り難くまどいやすし」と言い放った。今の言葉になおすと、「私のようなかたくなでおろかものは決して大器ではない。ともすればまどいやすくさとりにくい」と。仏教界の千軍万馬、重鎮学匠380余人の前で法然は、「人間の力は、ま、ドングリの背比べだ。その人間が大きな力を持てるとすれば、自分の力ではない他力（仏・絶対無限）に全権を託して生きねばならない。」それを言外に言ったのだ。この娑婆に暮らす肉体の不完全さ（相対有限）を補って余りある力が、生命と宇宙の持つ仏力（絶対無限）だと言った。



仏教の民衆化、在家仏教へ

妙好人とは②

500 年前、赤尾の道宗

確かに妙好人は、仏教の一宗、浄土真宗の篤信者だ。何故、真宗の在家からそういう人が輩出されたのか。これには意味がある。古くは赤尾の道宗、讃岐の庄松、因幡の源左など、一休さんの時代から江戸時代、昭和初期まで無数に存在した篤信者の群れである。勿論、寺の住職でもなければ何でもない。市井の人である。彼ら彼女達が心底ひざまづくべきものを持ち得た。それが絶対無限の存在、阿弥陀さんである。彼らは何一つ現世利益をホトケさんに期待しない。ご利益は阿弥陀さんに出会えた事一つで、カネも権威も得ていない。ホトケと自分を常に正対させて生きる、その純粹さ、一心さ、が凄まじい。カネ貰ってナンボの宗教者と違うのだ。いや失礼。寺院あってこそその仏教だ。

身を 嗜(たしな)む

カネと名誉が欲しい。
こんな日本に誰がした。

後生の一大事、
命のあらんかぎり
ゆだん有るまじき事

蓮如さんを慕って富山の山奥、赤尾から京都まで年二、三回、片道十数日を費やして本山参り、富山井波別院まで28キロ、大雪でも嵐でも正信偈を上げ、聴聞を欠かさなかった。道宗の阿弥陀仏への帰依は余りに凄まじい。絶対無限の存在、ホトケを信ずるとはこの事、と思い知らされる。生死を超えてサムシンググレート、如来と共に生きた道宗。

仏法において、うしろぐらき
利養心あらば、浅ましく存じ
候^{そうら}いて手を引く思いをなし
たちまちひるがえすべき事。

仏法は
私だけ私だけの
エゴを恥と思え、
と言っている。

当時、檀谷寺の和尚さんは道宗が草取りをしているところ、試しに後ろから蹴り飛ばした。すると道宗は、顔色も変えず起き上がって、又、草取りを始めた。和尚はもう一度やったが、変わりもなかった。和尚は訳なしに蹴られて怒らない君はどんな境地か、と聞いた。道宗は笑顔を崩さずに「前生の借金払いだ。まだまだあるかも知れない。」

自分と戦争

先の大戦で日本の犠牲はどうか。兵士 220 万、市民 130 万、計 350 万人。列島人口当時 7200 万で 4.8%にあたる。沖縄から東京・大阪・名古屋・神戸など大都市は無論、県庁所在地等中小 240 都市の中心部は米軍による国際法違反の無差別爆撃を受け、日本中が焼け野原となった。1945 年 3 月 10 日 深夜、東京下町は寝込みを襲う卑劣な大空爆を受け 10 万人以上が一夜で犠牲になった。東京大空襲後も連日、日本各地に無差別爆撃は続き、8 月 6 日と 9 日、広島・長崎に原爆投下され 22 万人以上が一瞬で焼死。負傷合計は計 50 万を超えた。にも関わらず、現在、日本国内に核が持ち込まれているのは米 元将官の言明で明らかだ。平和に暮らそうとする人類に、核を含む軍備は必要か。軍事への依存とは何か。それは、人間、誰もが持つ油断ならない「煩惱・欲望」に決定的原因がある。人類が従来通り煩惱に依拠して生きれば兵器や戦争は永久に絶えない。煩惱・理性による戦争は相互不信の究極だ。人類という種は、そこまで愚劣な存在なのか。

田辺市・高山寺

第3部
仏教圧殺、
二度の神殺し



一日 365 本、45.2 万人を 6 分間隔で運行する日本文明の象徴 新幹線のぞみ。新横浜にて



赤字廃線の鉄路こそ日本文明の至宝。蒸気機関車動態保存が鍵。黒字新幹線はそれを補ってナンボだ。

文明の衝突①

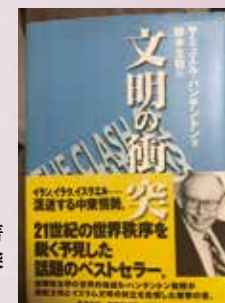
そもそも世界の大文明を今日まで支えてきた基礎は、それぞれの文明圏が擁している宗教によって成立している、とハンチントンは言う。この指摘は、文明という総合力の評価にあたって、実に的を得ている。何故ならそれぞれの文明の基礎、宗教が持っている世界観・人生観・生活規範こそ、その文明圏の人々の潜在的能力と深く関係しており、文明が和合性・侵略性と真っ二つに分かれる事から、この指摘に客観性が有る事を確認出来る。西洋文明の究極が資本主義文明で世界はの中で、転がってきた。資本主義文明は自利・モノカネ主体の文明である。その為の不可避的侵略性は、戦争を免れない。貧富格差の拡大も理性的な判断レベルを別に政府は肯定・促進している。

文明の衝突②

筆者が何故、世界八大文明を日本文明対その他の文明と規定したか。その唯一最大の理由は、日本文明の中心的基礎になっている伝統仏教の持つ「利他性」と現世界資本主義文明の持つ「自利性」の対極性にある。日本文明以外の西欧文明・中華文明・イスラム文明・ヒンドゥー文明・ロシア正教会文明・ラテンアメリカ文明・アフリカ文明（ハンチントンは、存在すると考えた場合と注釈をつけている）以上、他の世界七大文明には明白な利他性が文明の中心的基礎になる宗教に見当たらない。その理由は限界を肉体発の理性・知性を行動規範・世界観に置いている故だ。これはいづれ肉体の範疇での中心的存在、煩惱・欲望に攻め落とされ、自利が勝利してしまうからである。一方、日本文明のみが理知を超えた日本的靈性によって成立する世界文明で、利他を前提とする。世界七大文明と正面から衝突する所為である。

時代錯誤な資本主義体制

米国人サミュエル・ハンチントンに感謝する。理由は「文明」の本質を炙り出してくれた事。そして世界の八大文明に国教である伝統仏教を失いかけていた、この日本文明を世界の八大文明に列してくれた事だ。この二つの文明評価は、後世必ず評価される研究成果だ。21 世紀に人類は入ってもうじき四分の一を経過する。技術的特異点（シンギュラリティ）をその 20 年先に迎える。自利による現資本主義、世界政治・経済は、このまま行けば地球気象悪化で人類破局まで行かざるをえない方向性は歴然である。かろうじて止める事が出来るのは、利他の日本文明の先端、二極統合思想をおいて無い。



二極統合へ①

ゼロとイチの意味。

絶対無限 0 と相対有限 1

0が無ければ1は無い。0こそ全ての基礎である。0とは何か。連想するのは、清沢満之の「宗教哲学骸骨」だ。清沢は、如来・仏を絶対無限、肉体を相対有限と言う。肉体は相対有限。如来（生命）は絶対無限。肉体は生まれて死ぬまで相対有限の時空で過ごす。生命は肉体に宿る前後を貫通して時空は絶対無限。これを0と1に当てはめると0＝生命＝絶対無限、1＝肉体＝相対有限となる。次に肉体の特性、煩惱・欲望は、同じく1。生命の特性、霊性・良心は0。生命体とは、生命＋肉体＝ $1 + 0 = 1$ だ。つまり煩惱＋霊性の二極が統合して人間はこの世に存在する。生命が0で肉体が1。生命だけでも肉体だけでも人間は生きられない。肉体に生命が宿って、初めて生命体として生きられる。肉体から生命が抜ければムクロ（骸）、死体だ。肉体＝1を生かしておくには生命＝0が肉体＝1に宿っている期間だけである。1と0が統合の他、生物は存在出来ない。

ゼロが無いと万物は瓦解。

死は0、生は1。
霊性は0、煩惱は1。
プラスは0、マイナスは1。

宇宙が生まれて星が生まれる。それは0から1が生まれる事。1が無くなっても0は有る。0とは絶対無限、1とは相対有限。従って元素やブラックマター、正体不明のヒッグス粒子。宇宙そのものがどれだけ大きい時空でも1。その全てが消滅しても0は不滅。絶対無限だから。0は全ての発生源で宇宙消滅後の何もない姿、これが0。

私達の生命は0。肉体は1。1は無くなっても0は有る。つまり肉体は無くなっても、生命は有る。お互い生きている同士は肉体が相対有限、生命は絶対無限だ。生命がどれ程素晴らしい存在か、これでわかる。死ねば0に戻るだけだ。



煩惱は1、霊性は0
煩惱は相対有限、霊性は絶対無限だから。煩惱の特性、理性・知性は相対有限で1。絶対無限の特性、霊性・良心は0。肯定は0、否定は1。続いて、プラスは0、マイナスは1。矛盾しているかに見えるが、正解。0と1の面白い関係、全てはこの二極で構成される。もっと面白いのが死は0、生は1。

「欲」が全ての後進的な 世界資本主義文明 から日本文明へ

現在の世界資本主義体制は、資本という名の「主人公」が全てを支配する。故に資本を持たない大多数の意志は反映されない。資本主義体制は強者と弱者の中立性を持っていない。その体制下にある社会構造やシステムが資本による運営だからである。一般社会は民主主義という理性迄を限界とした有るべき姿を標榜しているに過ぎない。資本主義文明は、理性を限界とした偽物文明だ。故に、戦争も貧困も気象悪化も解決出来ない。資本が欲に基き利潤を求めれば平和さえも戦争に急変する。まして、政府・メディア・医療・教育・学術等の中立侵害は資本の前にわけもない。優れた次期文明とは、相対有限と絶対無限、生と死、自利と利他を統合した日本文明の華、二極統合思想で可能だ。ブルジョア思想が軽薄なのは、欲望に常に負ける理性を限界としているからだ。結果、弱者に対して酷薄で冷酷になる。利他か自利かは、弱者に対する対応に表れる。

東京と神奈川の境界を流れる境川にて

第4部
次の世界思想

梅原猛は 伝統仏教に着目。

哲学は俯瞰の学問

西洋哲学の成果物である資本主義文明は既に行き詰まっている。最大の理由は人類の煩悩・欲望・エゴが理性による解決でお茶を濁しているからだ。長い間、ニーチェやハイデガー。プラトンやデカルトの2系統に傾倒してきた梅原猛は、西洋哲学に何か不足を感じていた。日本仏教哲学の第一波、草木国土悉皆成仏思想に接触したからだ。利己の哲学から利他の哲学へ劇的な転換は、ここから始まった。仏教が中国に伝わり、伝聞では一地方での食人習慣を饅頭に変えさせた様に、仏教の持つ絶対平等思想が西洋哲学では曖昧な事に気づいた。利己と利他、野蛮と洗練、その先に何かがあるのか。歴史的な哲学的転換をした梅原は、既にないが哲学上、人類発展の大道に端緒を付けた。

西洋哲学の片面性に 気づく

日本の哲学者 梅原猛

日本人 梅原猛の使命は、何だったのか。ソクラテス、プラトン以来の西洋哲学の最終版、資本主義文明の具体的欠陥に気づく。来たるべき人類哲学に不可欠なのは、人間の持つ煩悩・欲望・エゴを、どう制御したらよいか。一方の霊性・良心・利他を、どう機能させるか、を考えた。外来思想が怒濤の如く日本になだれ込んだ明治以降、日本の仏教哲学も、その影響を受けながら大変革を遂げた。清沢満之、中村天風、鈴木大拙、柳宗悦等により想像を超えて進化し、動きはその後も止まっていない。

デカルト哲学で自然を
征服したが人類も滅亡
の兆し、共存の哲学こそ。

この世
我がカラダ
モノカネ
煩悩 全て
相対有限



権威主義的学統の縦割りから在野の思想家が、本質的に重大な思考を進化させる。それが新たな人類哲学となり人類・生態系に貢献する。鍵はエゴや排他性の無い霊性・良心・利他を「絶対無限」に内包する次期文明思想だ。

仏教哲学の 世界化と具体化。

廃藩置県で斜陽し真宗寺院に入寺

元々武士の徳永家から真宗教団に見いだされ、8歳から英語学校に学び、10歳で外国人教師の通訳を務めたという。真宗大谷派から東京帝大に派遣。同門は後の文部大臣二人、東京帝国大学学長。京都帝国大学総長を伍して首席。京大総長だった沢柳政太郎（後に成城学園創立）とは特に仲良く、清沢は「親友とは何か」の一文を残して「親友」を規定している。「絶対無限」を信憑している者同士は、身分立場を超えて親友同士である。この意味は大変深い。そもそも「絶対無限」を信憑するとは、どんな事かすら、にわかに理解し難いが、この問題についての考察が清沢の生涯を貫いた「如来」＝「絶対無限」。そして「煩惱」＝「相対有限」というあるがまま二極のテーマだった。

早世の天才 清沢満之の 「The Skeleton of Philosophy Religion」

この世 及び肉体、煩惱は「相対有限」
あの世 及び生命、如来は「絶対無限」

親鸞が中心に据えているテーマ、それは「南無不可思議光如来と煩惱熾盛」の二つ。これを清沢が西洋哲学的表現に置き換えたのが、「絶対無限」と「相対有限」だ。人類最大のテーマ、「肉体」と「生命」。「生」と「死」。肉体の特性「煩惱」と生命の特性「靈性」。清沢はこの二極に切り込んだ。

宗教哲学骸骨の 主題は相対有限 と絶対無限

「相対有限」と「絶対無限」という表現は、仏教思想の根幹だ。この世とあの世。煩惱と靈性。欲望と良心。戦争と平和。カラダとイノチ。自利と利他。どれも、典型的二極だ。次期世界文明の成否を決める重大キーワードだ。これが人類の「明」と「暗」の分水嶺であり、統合点だ。

日本文明は聖徳太子以来「和＝戦争をしない」だった。ところが欧米思想に基づく明治政権からは、これに真反対の政策をとった。

目からウロコ。 「本当の自分」

清沢満之誕生から14年、明治9年。

北九州柳川藩主一門出身で、北区王子生まれの中村三郎（後に天風と称す）は、寺と無関係である。幼少期、彼が育った大蔵省紙幣寮官舎に居たお雇い英国人夫婦に愛され英会話を体得した。本人曰く、「007の様に格好良くない軍事探偵」として満州東北部で活動。30歳、奔馬性肺結核にかかり、死に直面する。米国・欧州に治療を求めたが結局失意の末、帰国途上エジプトアレキサンドリア港で出会ったインド人ヨガ大聖人のもとで3年修行、結核が完治。修行中、師の示唆で自分の正体が「生命」である事に気づかされる。「肉体」は従的なもの、「心」はその両方の代弁機能と悟る。この三つを大悟した天風は、後に天風会を組織、東郷元帥や松下幸之助らを弟子に持ち、最盛時会員は百万人を超えた。

本質に触れる大問題

自分探し、最終解答

昭和43年、帰霊まで「生命」（いのち）と「肉体」（からだ）「精神」（こころ）三つの関係について全国で公演。門下は原敬首相、山本五十六元帥、横綱双葉山、小説家大佛次郎、石川素童禅師、合気道植芝吉祥丸もいる。彼の気づきは日本文明の基底、伝統仏教における「神仏」と「生命」の本質が全く同じと見抜いた功績は余りに大きい。この分析は人類の未来に計り知れない発展を約束した。

天風が肉体の本質は煩悩、生命の本質は霊性、と明確化した。自分を構成する肉体・生命・心、三つの関係と本質が明らかになり、伝統仏教がこの三機能で弁証法的に説明可能となった。仏教伝来後曖昧だった「肉体」の本質が「煩悩」。「生命」の本質が「霊性」。と分析した彼の功績は余りに大きい。

「生命」それは「正体。自分の」



日本文明の支柱、日本伝統仏教。それを強固にした天風思想。人間一人一人が持っている「生命」の特性「霊性」（ほとけの性）と「肉体」の特性「煩悩」が明らかになった。肉体・生命二極の統合社会を創る事で日本文明の仏教は貧困・戦争・地球環境悪化を世界から消滅させる目処が立った。

あとがき

人類が二足歩行をはじめた。その後、最初に他の生物種と異質な事に手を出した。火を使った事だ。その後、地中から取り出した鉱物を石器から鉄器時代に変えて久しい。その後蒸気機関から内燃機関で爆発力を応用しはじめた。同時期にプラス、マイナスの存在、電気エネルギーを利用し、次にゼロとイチの組み合わせで成立するデジタルへと進化した。

ここまでは科学の「進化」であった。遡って 1892 年、日本人仏教者清沢満之は科学と宗教の垣根を取り払う重大な進化のメカニズムに気づいた。絶対無限と相対有限の概念創出である。これは人類が火を生活に取り入れたよりも、鉄器や電気を取り入れたよりも、生物としての文明的進化では、遥かに大きな前進を意味する出来事なのだ。そのすぐ後、ヨガ直伝者、中村天風が、人類の永い間の大問題であった自分探しの旅に終止符を打った。つまり自分とは、自分の正体とは、自分のイノチ。と言う気づきだ。

750 年前、仏教者親鸞から始まる人間としての自分分析は、これで基本要件を全て満たしたのだ。それはどう言う意味か。人類が、科学と宗教を全く別のもの、と認識してきた、そう信じて疑わなかった段階から、いやそうではない。と言うステージへ一挙に飛び出した。人類と言う生物種一人一人が自分の中に霊性、良心と言う善人性。煩惱、欲望と言う悪人性。二極を内在させて生きている、と言う自覚前提で自分を見ることができる。その為、悪人性と言う社会的にトラブルを起こし易い極の自覚も、考慮に入れて判断し生きられるようになったのだ。これは何を意味するか。もう、人類から戦争や差別、自然破壊を起こす危険性がなくなる。と言う事だ。

清沢満之の絶対無限と相対有限の概念が人類の、宗教と科学の垣根を取り払った。

孔子、ソクラテスから 2400 年、人類が待ちに待った基本概念をようやく手にする事ができた。

科学がデジタルの時代に入り、ゼロとイチの数列複雑化で人類はシンギュラリティを迎える予測が既に立っている。その問題の宗教的解釈を清沢満之は絶対無限と相対有限、と言う概念によって科学と宗教の原理は同じである事を明らかにした。仏教で、煩惱と霊性の問題を表面化させた親鸞から、約 700 年、煩惱・欲望と霊性・如来を各々相対有限と絶対無限という概念に置き換えた清沢満之の功績は現代のデジタル化の基本が全てゼロとイチ。電気ではプラスとマイナスによって、成り立っている事が共通の概念であることに、人類の一人が気づいたのだ。

プラスとマイナス、イチとゼロ、煩惱・欲望と霊性・良心、二つの極が統合し習合することによって、はじめて人類の未来が決定的に進化できることを明白化した功績なのだ。つまり、146 頁からあるように、ゼロとイチと言う概念と、絶対無限と相対有限は同一概念で、長い間人類社会が宗教と科学の共通性を見いだせなかった問題の根本的解決を果たしたのだ。曰く生死の問題。真偽、善悪、美醜の問題、特に生死の概念にとって決定的安楽を人類に与えるのが清沢概念だ。

過去 2400 年来、人類哲学は生死の問題を一つと捉えず生だけを死と分離して扱ってきた。このあまりに後進的哲学のまま、今日を迎えたと言う事だ。天動説と地動説又は主観と客観、あるいは片面と両面と言える死生観、が人類にとって大きな問題であった。生と死を一つと捉えない後進性がどうしても乗り越えられなかった。今人類は生死の問題そして真偽、善悪、美醜の問題を含め、全て絶対無限と相対有限に分類、分析がわけもなく出来るようになった。コロンブスの卵どころか天地が動転するほどの根本解決を清沢満之はやったのだ。これで地球でのホモサピエンスと言う種の平和的、上質社会建設の文明的目処が立った。前世紀二億人といわれる犠牲者の上に築かれるこの新たな二極統合（習合）社会の誕生である。

オオハシ トクジ